

◇イベント報告◇

IFRS サステナビリティ・シンポジウム 2024 参加報告

SSBJ 専門研究員 今井 優里

SSBJ 専門研究員 江口 智美

SSBJ 専門研究員 村山 華

SSBJ 専門研究員 渡部 瑞穂

1. はじめに

IFRS 財団は、2024 年 2 月 22 日に、「IFRS サステナビリティ・シンポジウム 2024」を米国ニューヨークにて、対面及びオンラインのハイブリッドで開催した。15 のセッションが設けられ、30 名以上の登壇者が参加する大規模なシンポジウムであった。サステナビリティ基準委員会（SSBJ）の専門研究員は、オンラインで参加した。

本稿では、本シンポジウムの主要なセッションの概要について紹介する（下記「2. 全体のスケジュール」でハイライトしたセッションが対象）。なお、文中の各登壇者の意見及び筆者の意見にわたる部分は、各人の私見であり所属する団体・組織の正式見解ではない。

2. 全体のスケジュール

セッション(現地時間)	登壇者
開会挨拶 (8:45-8:50)	Nicolai Lundy 氏 (IFRS 財団)
ウェルカム・スピーチ (8:50-9:05)	Emmanuel Faber 氏 (国際サステナビリティ基準審議会 (ISSB) 議長)
ISSB 及び ISSB 基準の紹介 (9:05-9:15)	Richard Barker 氏 (ISSB メンバー)
適用準備を支援する IFRS 財団の役割 (9:15-9:25)	Jingdong Hua 氏 (ISSB 副議長)

イベント情報

セッション(現地時間)	登壇者
企業開示のエコシステム (9:25-9:55)	司会：Veronika Pountcheva 氏 (ISSB メンバー) パネリスト： Ian Carruthers 氏 (国際公会計基準審議会 (IPSASB)) Willie Botha 氏 (国際監査・保証基準審議会 (IAASB)) Laura Leal 氏 (国際会計士倫理基準審議会 (IESBA))
(1)ビデオ・メッセージ (2)対談 (9:55-10:25)	(1)Brian Moynihan 氏 (Bank of America) (2)Michael Tovey 氏 (Bank of America) Emmanuel Faber 氏 (ISSB 議長)
法域での適用に備える：規 制当局は ISSB 基準にどの ように対応しているのか (1)ビデオ・メッセージ (2)パネル・ディスカッショ ン (10:55-11:40)	(1)Jean-Paul Servais 氏 (証券監督者国際機構 (IOSCO)) (2)司会：Ndidi Nnoli-Edozien 氏 (ISSB メンバー) パネリスト： Nandini Sukumar 氏 (世界取引所連盟 (WFE)) João Pedro Nascimento 氏 (ブラジル証券取引委員会) 池田 賢志氏 (金融庁)
サステナビリティ関連財務 情報は投資決定にどのよう に利用されているのか (1)ビデオ・メッセージ (2)スピーチ (3)パネル・ディスカッショ ン (11:40-12:40)	(1)Eric Pan 氏 (米国投資信託協会 (ICI)) (2)Emmanuel Faber 氏 (ISSB 議長) (3)司会：Verity Chegar 氏 (ISSB メンバー) パネリスト： Jeff Cohen 氏 (Oak hill Advisors) Jay Eisenhardt 氏 (Northern Trust Asset Management) Monika Freyman 氏 (Addenda Capital)
学術的見解：投資家はより 良いリターンを得るために サステナビリティ情報をど のように利用するのか (13:50-14:05)	Nawar Alsaadi 氏 (Kanata Advisors)
統合するサステナビリティ 開示の環境 (14:05-14:20)	Elizabeth Seeger 氏 (ISSB メンバー)
ラウンドテーブル・ディス カッション (14:20-15:10)	該当なし (対面のためのセッション)

イベント情報

セッション(現地時間)	登壇者
企業はどのように、また、なぜ ISSB 基準の適用を計画するのか (15:40-16:30)	司会：Jenny Bofinger-Schuster 氏 (ISSB メンバー) パネリスト： Melissa Bird 氏 (Johnson & Johnson) Catherine Goyer 氏 (BCE and Bell) Tobechukwu Okigbo 氏 (MTN Nigeria) Brian Finch 氏 (Mastercard)
対談 (16:30-17:00)	Fiona Bassett 氏 (FTSE Russell) Michael Jantzi 氏 (ISSB メンバー)
対談 (17:00-17:30)	Andrew Liveris 氏 (Dow Chemical Company) Elizabeth Seeger 氏 (ISSB メンバー)
1 日の振り返り (17:30-17:40)	Ndidi Nnoli-Edozien 氏 (ISSB メンバー) Jeff Hales 氏 (ISSB メンバー)

3. 議事概要

(1) ウェルカム・スピーチ

本セッションでは、ISSB 議長の Emmanuel Faber 氏より、ISSB のこれまでの取組みとともに、各法域におけるサステナビリティ開示基準の動向を踏まえた ISSB の今後の取組みについて説明がなされた。

Emmanuel Faber 氏は、IFRS 財団が 2024 年 2 月 22 日に公表した「ISSB 基準の導入又はその他の使用に関する最初の法域ガイドのプレビュー」について触れ、本ガイドでは、各国の規制当局がサステナビリティ開示制度を構築するにあたり参考となる ISSB 基準の適用方法や規制当局の役割などが記載されており、これらの情報により規制当局の取組みに関する透明性が高まり、結果的に、投資家及び作成者が自らとるべき行動又は対応を把握するのにも役立つと説明した。

次に Emmanuel Faber 氏は、ISSB 基準の導入又は使用について既に 15 以上の法域と協議していると述べ、各法域で ISSB 基準と大きく乖離したサステナビリティ開示基準が制度化された場合には、サステナビリティ開示の比較可能性が担保されず、企業がなすべき対応が複雑化する可能性があり、そのような状況を回避するためには ISSB 基準の適用促進に向けた関係者の行動が不可欠であるとの見解を示した。

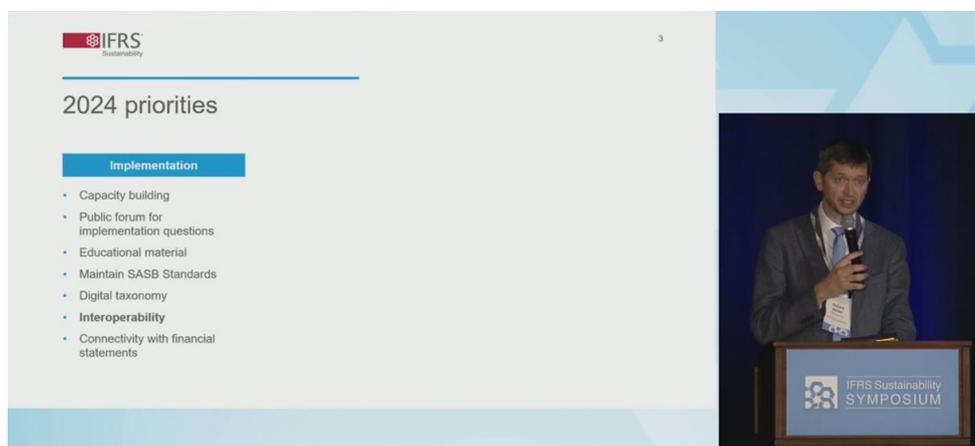
Emmanuel Faber 氏による説明の様子



(2) ISSB 及び ISSB 基準の紹介

本セッションでは、ISSB メンバーの Richard Barker 氏より、ISSB 基準の目的、並びに IFRS S1 号「サステナビリティ関連財務情報の開示に関する全般的要求事項」（以下「IFRS S1 号」という。）及び IFRS S2 号「気候関連開示」（以下「IFRS S2 号」という。）の導入支援を含む ISSB の今後の取組みについて説明がなされた。

Richard Barker 氏による説明の様子



(3) 適用準備を支援する IFRS 財団の役割

本セッションでは、ISSB 副議長の Jingdong Hua 氏より、IFRS 財団が実施している ISSB 基準の適用促進に向けた取組みについて説明がなされた。

Jingdong Hua 氏は、ISSB 基準の適用促進のための IFRS 財団の取組みとして、①IFRS S1 号及び IFRS S2 号に既に組み込まれているプロポーショナルリティに関する定めやガイドンス、②経過措置、③ISSB 基準の導入又はその他の使用に関する法域ガイド、④キャパシティ・ビルディングに関する対応を挙げ、キャパシティ・ビルディングに関する具体的な対応には、ナレッジ・ハブの立上げ、IFRS S1 号及び IFRS S2 号に関する移行支援グルー

イベント情報

プ（TIG）の設置、多様なセッションやプログラムを通じた各国関係者との交流、及び GRI と連携したサステナビリティ・イノベーション・ラボの設置などがあることを説明した。

(4) 法域での適用に備える：規制当局は ISSB 基準にどのように対応しているのか

本セッションでは、IOSCO 理事会議長の Jean-Paul Servais 氏によるビデオ・メッセージの後に、ISSB メンバーの Ndidi Nnoli-Edozien 氏が司会を務め、規制当局の関係者をパネリストに迎えたパネル・ディスカッションが行われた。

Jean-Paul Servais 氏は、IOSCO の役割は、ISSB と緊密に連携し、各法域の規定当局から寄せられたフィードバックを ISSB に提供するとともに、ISSB 基準の導入を検討する法域を支援することであると述べた。さらに、ここ数年はネット・ゼロ・コミットメントを達成するための移行計画の開示に焦点が当てられているが、移行計画に関するさまざまなフレームワークが乱立しており、IOSCO では移行計画の開示における断片化（fragmentation）や不整合をモニタリングしていることが説明された。

パネル・ディスカッションでは、まず、ブラジルの規制当局が 2023 年 10 月に ISSB 基準の導入に向けたロードマップを公表したこと、また、我が国では ISSB 基準を踏まえたサステナビリティ開示基準の開発が行われていることなどが紹介された。そのうえで、各パネリストより、各所属機関においてこれまで実施したサステナビリティ開示に関する取組み、及び ISSB 基準の導入を促進するために関係者が今後検討すべきことなどが議論された。

パネリストからは、多くの企業が、自国のみならず、事業を営む他の法域にも依存していることを鑑みると、ISSB 基準の適用に向けた各法域の規制当局による協働を確実にすることが重要であるとの見解が示された。また、今後は、どれだけ多くの企業が ISSB 基準に基づき戦略的思考に焦点を当てた開示を行うかという側面も、ISSB 基準に係る取組みの有用性を測る重要なポイントであるなどの見解も示された。

(5) サステナビリティ関連財務情報は投資決定にどのように利用されているのか

本セッションでは、米国投資信託協会（ICI）の Eric Pan 氏によるビデオ・メッセージ及び ISSB 議長の Emmanuel Faber 氏によるスピーチの後に、ISSB メンバーの Verity Chegar 氏が司会を務め、投資家をパネリストに迎えたパネル・ディスカッションが行われた。

Eric Pan 氏は、スコープ 3 温室効果ガス排出の開示の重要性、比較可能性や信頼性が高く投資の意思決定に有用なサステナビリティ関連財務情報が開示されることの必要性、及び各国でさまざまな開示規制が乱立することを回避することの必要性について述べたうえで、ISSB 基準が国際的に広く使用されることが望ましいとの見解を示した。

イベント情報

次に、ISSB 議長の Emmanuel Faber 氏は、Eric Pan 氏が述べたような投資家からの懸念の大部分は、比較可能性や信頼性が高く保証可能な単一の言語によって解決されるであろうと述べ、ISSB 基準は共通言語として機能するという見解を示した。

パネル・ディスカッションでは、各パネリストにより、サステナビリティ関連財務情報をどのように投資の意思決定に利用しているかが説明されたうえで、企業の将来を投資家が予測するために有用な情報が開示されることの必要性、比較可能性が高い情報が開示されることの必要性、及び情報へのアクセスを容易にするものの必要性について説明された。

パネリストによる意見交換の様子



(6) 統合するサステナビリティ開示の環境

本セッションでは、ISSB メンバーの Elizabeth Seeger 氏により、気候関連財務開示に関するタスクフォース（TCFD）提言、SASB スタンドアード及び統合報告フレームワークを用いて既に開示を行っている企業が、どのように ISSB 基準の適用準備を進めればよいのかについて説明がなされた。

Elizabeth 氏による説明の様子



イベント情報

(7) 企業はどのように、また、なぜ ISSB 基準を適用することを計画するのか

本セッションでは、ISSB メンバーの Jenny Bofinger-Schuster 氏が司会を務め、企業の関係者をパネリストに迎えたパネル・ディスカッションが行われた。各パネリストは、聴衆から寄せられた質問に回答するとともに、ISSB 基準に関連する相互運用可能性及びキャパシティ・ビルディングなどについて議論した。

(8) 対談

本セッションでは、ISSB メンバーの Michael Jantzi 氏が FTSE Russell の CEO である Fiona Bassett 氏に質問する形式で、FTSE Russell におけるサステナビリティ投資に関する取組み、投資家によるサステナビリティ情報の使用方法及びインデックス・プロバイダーの役割などについて議論がなされた。

(9) 対談

本セッションでは、ISSB メンバーの Elizabeth Seeger 氏が Dow Chemical Company の前会長及び CEO である Andrew Liveris 氏に質問する形式で、Andrew Liveris 氏の複数の企業における経営幹部の経験を踏まえつつ、社会におけるサステナビリティ開示基準の役割、及び経営幹部と社内のサステナビリティ開示担当者との連携などについて議論がなされた。

(10) 1 日の振り返り

本セッションでは、ISSB メンバーの Ndidi Nnoli-Edozien 氏及び Jeff Hales 氏により、本シンポジウムの主要なテーマ、各登壇者から述べられた見解及びそれらの見解から得られた学びなどについて振り返りがなされた。

以 上